

第 11 回 同 窓 会 報

〒564-8680 吹田市山手町 3 丁目 3 -35
☎06-6368-1121 内線5840
同窓会編集委員会 発行



《《 卷 頭 言 》》

大学教育に悩む

化学工学科 教授
三宅孝典

48歳。会社であれば部長クラスで、責任を持って部をリードし、結果に対し責任をとる年齢であろう。会社を実質的に切り盛りする年齢である。私の場合、大学に移って3年目、教育者としては全くの駆け出しである。授業にしても学科の諸事にしても未だに判断に迷うことが多い。一番の悩みは授業である。

四半世紀前に私が大学で受けた授業に比べ、今の授業は格段に丁寧に見える。手取り足取り、噛んで含ませるが如く。学生はまじめに授業に出、ノートをとっている。これが学費に見合う授業と言うことになっている。昔は違った。昔も丁寧に教えてもらっていたのかも知れないがあまりその記憶がなく、テスト前になると自分で教科書を読んで勉強したように思う。明治や昭和初期の高等教育の方が、ある意味今よりよほどまともだったのではないだろうか。10代、20代の学生が、今より相当大人だった様に思える。今の勉強ぶりで期末テストの点はとれるが、どれ程実力がついていのか心配である。社会に出れば、すぐ答が見つかるような簡単な問題は殆どない。色んな仮定を考え、粘り強く取り組まないと答えは得られない。今の自分の授業が、社会で使えるに耐えるものになっているだろうか。英語の授業も、いったい大学で何を教えたらいのか。専門分野の単語か、文法か。そんなものは辞書を引けば良いし、中学・高校で習ってきているのではないのか。いったい大学の授業は、どこに要点があるべきなのか。卒業生にも問いたい。

2007年になると全入の時代が始まる。つまり、大学の入学定員の方が、大学進学希望者の数より多くなり、高校時代に勉強していなくても、大学を選ばなければ進学希望者は全員が大学生となる。何も2007年に始まったことではなく、今までもその方向に来ている。旧国立大学も含めて日本全国の大学生の学力レベルが下がっている。この様な現状を前にして、何をどう教えれば良いのか。

卒業生に問いたい。大学の勉強はどれほど役立ったのか。私の経験では、即役立つものなどなかったのではないかと思う。結局、必要なものをもう一度自分で勉強するしかないのではないか。教えられることと自ら学ぶことに大きな差があるのではないだろうか。この辺を良く考え、なるべく早く本物の教師になりたいと思う。教員全員で知恵を出し合って、より評価される卒業生を送り出せる様に継続的に改善していきたいと思う。

本年4月に新任の教授をお迎えすることになった。大学以外からお迎えするが、教育経験をお持ちの方であり、学科の発展に尽力いただけると期待している。

最後になったが、全ての卒業生が心身ともに健康であられることを願ってやみません。

ヒビヒビ

“卒業生に聞く”



諦めない夢の先にあるものは

平成7年修了 (炭素材料[(現)エネルギー材料]研究室)

THK America, Inc.

Atlanta Region District Manager

板屋 宏明

皆さん、お元気でしょうか？1995年に修了してからはや10年が経過しようとしております。私は卒業後THK株式会社という会社に就職しまして、現在はそこのアメリカ法人であります、THK America, Inc. (以下、THK America) という会社に籍をおいております。このように書きますと、“駐在員としての出向”と考えるのが一般的な捕らえ方だと思いますが、私の場合は2003年に一度同社を退職し、自力で渡米、現地法人のTHK Americaに再就職しました。つまり、現地社員として、生活の基盤を完全にアメリカに移したわけです。一般に、駐在員としての海外赴任は、ポジティブな意味の「出世コース」、またはネガティブな意味の「左遷」と取られることが多いと思います。また、当社(日本サイド)も海外展開を行っていましたので、駐在員としての候補リストに載って順番を待つ、という方法もあったかもしれません。実際、たくさんの日本人がアメリカで仕事をしております。しかし、一般的には数年の赴任後は日本に帰国ですから、“日本の会社を退職・アメリカ法人に再就職”なんていうことを成し遂げた私のことを、「よくもまあそんな思い切ったことをしましたね」と、「バカやなあ」いうニュアンスを含んだ言葉で表現される方も多々おられます。そんな中、敢えて私がこれを題材に選んだのにはわけがあります。私はここで、“私自身の体験談”を通じて、“諦めなかった夢の先にあるもの”について、お話ししたいと思います。

そもそも、なぜ私は日本の会社を辞めてまでアメリカに渡ったのでしょうか？「日本での仕事に飽きたから？」「上司が嫌いだったから？」「なんとなく？」、いいえ、違います。私にはやってみたくことがあったのです。日本で丸8年も働きますと、仕事もそつなくこなせて結果も出せるようになります。結果に伴い、役職者への昇格もありました。たぶん、このままいけば、それなりにいいポジションで定年になり、いい老後を迎えられたでしょう。でも、昔から“現状で満足しない”性格が私に耳打ちしました。「どんなにここで一番

写真のことなら…

DIGITAL & COLORPRINT

カメラの **大学堂**

〒565-0842 大阪府吹田市千里山東 1-14-10

TEL 06 (6388) 5773 FAX 06 (6378) 6121

e-mail: daigakudo@sutv.zaq.ne.jp

ボンドケミカル商事株式会社
(コニシ株式会社)

代表取締役
社長
昭和49年卒業

小西 哲夫

本 社 大阪市中央区道修町2丁目2番11号

〒541-0045 (バルロード道修町9階)

TEL 06-6228-2858

FAX 06-4707-6346

をとってもそれは井の中の蛙じゃないのか？世界一の市場は日本ではなくアメリカだぞ。アメリカで一番を取らないと本当の一番を取ったことにはならないんじゃないか」と。それ以来、米国赴任を強く要望し、希望を出し続けていたのですが残念ながら私には順番がまわってきませんでした。一方、私は結婚していましたから、ここで海外にいけなかったら、数年後では子供の義務教育が始まってムリだな、と思い始めていました。それが2003年でした。「今しかない」「今しかできない」ということで家族の了解をもらい、前述のように自力で渡米し自己の能力への挑戦がスタートしました。

実際に渡米してからというのは、ゼロからのスタートで、かなり苦勞しました（詳細は別の機会に述べるとして今回は割愛させていただきます）。今だから言えることですが、諦めて帰国しようかと思った時期もありました。でも、「夢は諦めたときに終わる」という言葉を胸に最後まで諦めずにここまで来ました。そして諦めなかったから、今のポジションや生活環境を手に入れることができたのだと思います。

僭越ながら述べさせていただきますと、皆さんもこれから課題・目標に対し多くの困難にぶち当たると思います。でも最後まで決して諦めないでください。諦めたらそこですべて終わりです。実験も研究も営業も、途中で諦めたら成功は得られないでしょう。頑張り通したその後には、皆さんにとって必ずよい何かが待っています。それがすべて満足のいくことではないでしょうが、必ず皆さんの糧になっているはずですよ。夢は諦めたらそこで終わります。



これから必要なもの

平成10年卒業（機能表面 [(現) エネルギー材料] 研究室)
(株) 東洋炭素
多田 竜也

平成12年に大学院を修了し、東洋炭素に入社いたしました多田と申します。

卒業生の皆さんは各人が新たな道を歩みだし、社会人として企業等を通じて社会に貢献されることと思います。中にはこの新たな旅立ちに不安を感じている方もいるでしょう。この様な方は入学当時の事を思い出してください。舞台が「大学」から「企業」へと変わりますが、これまで同様、急がず新しい環境に適応して行けばいいだけです。

少しばかり私の仕事内容・経験談をします。卒業後に東洋炭素に入社し、現在までカーボン材料の開発・製造技術の確立業務に携わっています。皆さんのカーボンに対するイメージは、カーボンファイバー、鉛筆の芯といった所でしょうか？ 工業製品としてのカーボン材料は目にする機会が非常に少なく、一般の方の認知度が低いため説明も一苦勞です。

真空中で炭素を高温に加熱すると、徐々に黒鉛に変わります。この黒鉛は真空やアルゴン等の中性ガス中では2000℃に加熱しても形を保持し、強度が低下しません。そのため半導体製造用のヒーター・るつば、放電加工用電極に使われます。また黒鉛の持つ自己潤滑性により、ポンプ・コンプレッサー用摺動部材から電車のパンタグラフに至るまで用途は様々です。これら古典カーボンに加え、C/Cコンポジット、ファイバーは軽量・高強度の特徴から、自動車・スポーツ用品に使われています。

学生時代に小田教授のもとカーボンに関する研究をしていましたが、カーボンの世界は

広く奥深く、(テスト前に一夜漬けで得た学術的知識が後々思い出される事もなく)、入社時はゼロからのスタートとなりました。それなりに努力と苦勞をした結果、一年後には自分の研究テーマを持ち、現在では客先での技術対応に至るまで業務は多岐に渡っています。私の経験上、自己の業務内容に縛られず、常に新しい知識を吸収するのが望ましいと考えます。入社当時、上司が口にした「現場には宝がある」が印象的でした。現場は客(市場)、工場であり、自らが赴き生の声を聞き、また経験せよという事です。机の上だけでは成長は期待できません。

最後に若手を取り巻く労働環境についてお話します。経済成長の鈍化・グローバル化の波を受け、企業は収益率の向上が求められています。つまり雇用コストの削減を模索する必要に直面しています。年々厳しくなる労働条件の中、転職が珍しくなくなり、労働政策も労働移動のサポートに軸足を置くなど働き方の自由度が高まっています。しかし同時に、能力や実績がこれまで以上に重視され、自己責任が強く求められる事を意味します。変化のスピードが速い社会で常に個人自らが職業能力を開発し、エンプロイアビリティ(雇用されるにふさわしい能力)を身に付ける様心掛けて下さい。皆様のご活躍を期待しております。



卒後10年を振り返って

平成7年卒業(移動現象研究室)
小野薬品工業(株)大阪支店
東島弘茂

私に関西大学を卒業してちょうど10年になります。10年前というと、記憶にも新しい阪神淡路大震災があった年で、卒業単位数の足らなかった私は大学裏の友人の下宿で、明け方まで勉強して寝ようと思った時でした。あまりの揺れのため、大きく揺れる家具を(こちらに倒れてくるな!と念じながら)じっと見つめているだけだったと記憶しております。

その年の四月に小野薬品工業(株)に入社し、現在もMR(医薬情報担当者)を続けております。当時の就職戦線は、バブルが弾けた影響で理系といえども人材募集は少ない状況でした。また、自分は一日中研究に専念するよりも、今ある知識を活かし人と接する仕事の方が向いているのではと思い、当時景気に強いと言われた医薬品の営業(MR)を志望し

その年の四月に小野薬品工業(株)に入社し、現在もMR(医薬情報担当者)を続けております。当時の就職戦線は、バブルが弾けた影響で理系といえども人材募集は少ない状況でした。また、自分は一日中研究に専念するよりも、今ある知識を活かし人と接する仕事の方が向いているのではと思い、当時景気に強いと言われた医薬品の営業(MR)を志望し

理化学機器
理化学硝子器

赤尾理化機器

赤尾雄三

〒606-0081 京都市左京区上高野畑町39-10
TEL (075) 701-2729
FAX (075) 701-2740
E-mail: akaorika@mwe.biglobe.ne.jp

測定対象ごとの最適X線回折測定手段を提供...

株式会社 トライ・エスイー
TRY-SE Co., Ltd.

主製品

単結晶の方位測定と解析: ラウエカメラ ラウエ結晶方位解析システム、
結晶方位設定・研磨ジグ/ゴニオメータ
物質の環境変化測定: ガス雰囲気測定 試料加熱・冷却測定 試料ホルダー
粉末X線回折データ解析: JCPDSデータベース 物質の同定解析システム
基本装置: X線回折装置
X線発生装置 X線管(回折X線管 蛍光X線管)
モノクロメータ X線検出器 X線計数計
イメージングプレート 2次元画像測定装置
X線管冷却循環送水装置

事業所 大阪市淀川区木川東3-5-21第3丸善ビル
TEL.06-6368-5135 FAX.06-6368-5136 E-mail: try-se@try-se.co.jp

ました。(扱う薬にはその優位性が重要と思い) 独創性があり開発力のある会社であり、更に、大手すぎでは歯車として埋もれてしまうのではと考え、両方を加味して小野薬品を選びました。就職活動中、ある企業の人事の方が、『医薬品業界は更に競争が激しくなり、開発力の無い企業は吸収され、10年後には半数以下になっているだろう』と言われ、実際内定を頂いた他の会社を始め、新入社員当時、病院に出入りしていた会社の約半分は社名が変更となっております。合併して会社が大きくなるメリットもありますが、社名が変わるのは不安で寂しいものです。この10年なんとか小野薬品は存在しているので、今のところ自分の選択は良かったと思っています。

入社して大阪支店に配属され、まず担当したのは吹田市・箕面市の開業医+個人病院で、現在は大阪狭山市にある近畿大学医学部附属病院を担当しております。開業医であっても、大学病院であっても、仕事は同じです。病院に訪問し、お医者さんに当社の薬剤をPRし、病気で困りの患者さんに処方され、薬問屋さんに薬剤の注文が来て、会社(自分)の業績になります。ですから、自分が頑張れば頑張るほど自社製品が処方され、それによって患者さんは良くなり、病院・先生の評判も高まり、自分の実績upにもつながるという好循環が起こります。しかし、訪問時間の規制があったり、薬剤の購入に府や県の方針があったりと、なかなかうまくいかないのが現状ではあります。現在、大学病院での営業以外に新薬の開発治験を手伝ったり、希少疾患や難病の治療を目の当たりにしたりと、高度先端医療に携わっている者の一員としての使命感や実績以外のやりがいも感じながら日々活動しております。

以上、取り留めのない内容で甚だ恐縮ではございますが、ご報告を終わらせていただきます。最後にこのような節目の年に同窓会報の執筆をさせて頂けた事を同窓会関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

理化学機械・器具販売

有限会社 東郷商会

守口市寺方錦通三丁目一番二十五号
TEL 06-6999-6192
FAX 06-6999-6125

MIZUKEN

計量証明事業登録 大阪府第 10124 号

飲料水水質検査業登録 大阪府 9 水第 6-7 号

水を科学する

<業務内容>

- ◇水質・大気・悪臭・土壌・産業廃棄物の分析・測定
- ◇ダイオキシン類・環境ホルモンの分析・測定
- ◇環境アセスメント及び申請書類作成
- ◇河川・海域・湖沼等の観測・調査
- ◇水処理装置の設計・施工・管理

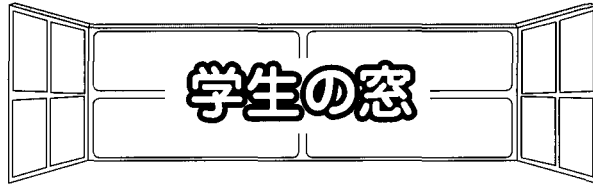
株式会社 ^{みず}総合水研究所

〒590-0984 大阪府堺市神南辺町 1 丁 4-6

tel: (0722)24-3532(代)

fax: (0722)24-3257

e-mail: mizuken@msb.biglobe.ne.jp



大学生活でみつけたもの

エネルギー材料研究室
東 峰 有 美

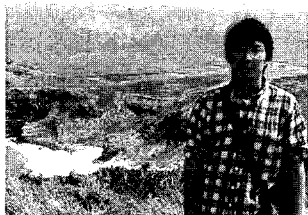


私の学生生活を振り返ってみると、前半2年と後半2年と大きく分けられるのではないかと思います。2回生の終わりごろまでは、テニスサークルに入り、バイトもして、勉強もある程度頑張っていて、というごく普通の大学生活をしていました。しかしその反面、このまま日々の流れに任せて大学生活が終わってしまってもいいものなのかという、漠然とした疑問が心の中にわきあがってきていたのも事実でした。3回生の後半からは就職活動が始まり、4回生になると研究室が始まります。3回生の夏休みが最後のチャンスだと思った私は、何かアクションを起こすことを決心しました。そこで選んだのは、以前より興味があった環境問題についてのスタディーツアーに一人で参加する、ということでした。これは、環境先進国であるドイツ、オランダ、デンマークの環境政策を視察するというものでした。初海外、一人参加など、不安はたくさんありました。また、実家通いで何かと親に頼っていた自分を変えるためにも準備や旅費などは自分でどうにかすると決めました。しかし今までのアルバイト代でこの旅費を作り出すのはとても大変なことでした。そんな私の計画を後押ししてくれたのが春にもらった関西大学学部給付奨学金でした。この奨学金は、自分が頑張ってもらったものだから良く考えて自分の好きなように使いなさい、と親から言われていました。そこでこの機会に使うのが一番良い使い道ではないかと思った私は奨学金を旅費の一部にし、ツアーに参加することを決心したのでした。

このツアーに参加して本当によかったと思います。自分でいろいろな準備をするといったことでも成長できたと思いますが、一番の収穫は異国の環境政策に触れ、客観的に日本を見ることによりさらに環境問題に興味をもてたこと、また同じような意識を持った仲間に出会えたこと、そして自分の視野が広がったことでした。このツアーから帰ってきて、今までの自分は本当に小さな世界でしか物事を考えていなかったということに気付かされました。これをきっかけに始めたことはたくさんあります。さらに視野が広がり、やりたいことがたくさん見つかりました。就職活動も環境関連の仕事に就きたくて様々な企業をまわり、最終的にはエアゾール製品を扱っている会社の研究開発部に決定しました。研究室でも実用化に向けた水処理装置の研究を行っています。また、4回生の夏にはベトナムで植林活動を行うボランティア活動にも参加し、またひとつ成長できたのではないかと思います。

こうやって私がいろいろなことに挑戦し、成長することができたきっかけは、3回生の時にもらった奨学金です。しかしその奨学金がもらえたのは2回生のころまでの頑張りがあったからだと思います。最終的にはどんなこともつながっているのだと実感した学生生活でした。勉強でも、友人でも、何事においてもそうだと思います。「つながり」というものは本当に大切なものです。卒業してからもこのことを忘れずに、大学時代にみつけた大切な「つながり」を、社会人生活でできる「つながり」につなげていきたいと思っています。

教室だより



第22回国際選鉱会議(IMPC)に参加して

平成8年修了 (界面化学工学[(現)資源循環工学]研究室)
関西大学工学部化学工学科 講師
村山 憲弘

2003年9月28日～10月3日に南アフリカ共和国のケープタウン市にて開催された第22回国際選鉱会議 (International Mineral Processing Congress, 以下IMPC) に出席して、研究発表を行う機会を得ました。同窓会誌の原稿として、拙い記憶を頼りにその時の様子を書き綴りたいと思います。

現在、日本からの南アフリカへの直行便はなく、香港やシンガポールを経由してヨハネスブルグに入るルートが一般的である。当時はSARSが懸念された時期であり、思い切ってロンドン経由でケープタウンに直接入るルートを選択した。関空ーロンドン12時間、乗り継ぎ3時間、ロンドンーケープタウン12時間の計27時間にもものぼる強行スケジュールと相成った。のちにひどく後悔したことを付記しておく。ともあれ、ケープタウン国際空港からタクシーで宿泊先のホテルに無事到着した。

IMPCは、1952年ロンドンにて第1回が始まって以来、ヨーロッパ諸国、アメリカ、旧ソ連、オーストラリアなど世界各国で開催されており、このケープタウン大会で22回を数えることになる。浮選、粉碎、乾式冶金、比重選別など従来から続いているセッションの他に、廃棄物処理と管理、鉱物の物性などが今回新設された。選鉱とは直接関係しないが、我々の研究室からは石炭灰を原料とするゼオライト合成に関する研究で事前登録した。オーラルとポスターの両方で発表する機会を得た。私の発表はさておき、多くの研究者達が我々の研究に強い関心を示してくれたことに喜びを感じた。国際色豊かな約50カ国700人ももの研究者や技術者が一堂に会し、豪華なディナーパーティーやアフリカ色の醸し出されたイベントなどが盛大に行われた。

旭テクノグラス特約店・オリンパス顕微鏡特約店・理化学機器全般

株式会社 小倉理化

〒574-0017 大阪府大東市津の辺町2番16号
TEL.072-876-5464
FAX.072-877-0190
E-mail info@ogurarika.co.jp



KING Work's Co., Ltd

弗素樹脂のバイオニア

株式会社 キング製作所

代表取締役 稲垣 允久

本社 吹田市泉町5丁目13番9号
〒564-0041 TEL (06) 6389-4176(代) FAX (06) 6387-3049
滋賀営業所 滋賀県彦根市平田町421 NASU 1ビル206号
〒522-0041 TEL (0749) 22-6606 FAX (0749) 22-5245
URL: <http://www.king-works.co.jp> E-mail: kpf-king@ic.biwa.ne.jp
滋賀営業所 E-mail: sig-king@chive.ocn.ne.jp

学会開催地のケープタウンは、アフリカ最南端に位置する国際的な港町であり、シンボルとしてそびえ立つテーブルマウンテンを町の至る所から眺望することができる。南アフリカの代表的な都市は治安が悪く、日本の外務省も十分に注意するよう呼びかけている。虫刺されによるマラリア感染にも気をつけねばならない。アパルトヘイト解放後、現在では有色人種による白色人種への逆差別が社会問題になりつつあるとのこと。これらの事前情報に若干萎縮しすぎた感もあったが、そのような中で、ウォーターフロントと呼ばれる地区は観光客が安心して買い物や食事を楽しむことができる場所である。総じて割高ではあるが、安全性ゆえ多くの時間をここで過ごした。現地料理の味付けには多量の香辛料が使用され、日本人にはあまり向かないだろう。一方、ウォーターフロント内で食した日本人が握る新鮮なサーモンの寿司が素晴らしく、幸か不幸か、一番印象に残っている。学会の合間には、ホテルなどで受け付けている観光ツアーのいくつかに参加した。雄大なテーブルマウンテン、まさに絶景なる喜望峰（スナップ写真）、現地の植物園を訪れた。ツアーバスで海岸沿いを移動する際、運良く窓越しから鯨やペンギンを見ることができた。

僅かな期間の滞在であったが、アフリカ大陸の自然や文化に触れた感動と同時に、日本人が国内で当たり前のように安全に過ごせることの有り難さを再認識させられた。本国際会議の参加に際してご配慮賜りました先生方に厚くお礼申し上げます。最後に、身勝手な乱筆をお詫び致します。

福島 達先生を偲ぶ

去る12月3日、本学名誉教授、福島 達先生がご逝去されました。享年83歳。

先生は昭和19年京都帝国大学工学部燃料化学科を卒業後、京都大学工学部助手、大阪府立大学助教授を経て、昭和38年本学に教授として赴任されました。ご専門は反応工学、生物反応工学で、本学科の教育研究の発展に大いに寄与されました。学会活動では化学工学会関西副支部長ならびに支部長をお務めになり、また名誉会員として運営と発展に多大なる貢献をされました。平成7年勲三等瑞宝章が授与されました。

先生は、オリジナリティのある世界に通用する研究でなければという研究姿勢で、化学

ジーエルサイエンスの

ガスクロマトグラフ



ジーエルサイエンス株式会社

本社 〒163-1130 東京都新宿区西新宿6丁目22番1号
新宿スクエアタワー30F

【営業部代表】電話 03(5323)6611 FAX 03(5323)6622

ホームページ: <http://www.gls.co.jp>

大阪支店 TEL06(6357)5060 北関東営業所 TEL048(667)1611 名古屋営業所 TEL052(931)1761
東北営業所 TEL024(533)2244 武蔵営業所 TEL042(934)2121 京都営業所 TEL075(256)0111
筑波営業所 TEL0298(24)3281 横浜営業所 TEL045(475)1144 広島営業所 TEL082(233)1101
千葉営業所 TEL043(248)2441 静岡営業所 TEL054(288)5252 九州営業所 TEL092(291)5200

オフィス家具・事務用文具

OA・PCサプライ&プリンティング

株式会社 宗石商会

〒530-0044 大阪市北区東天満2丁目10番35号

TEL (06) 6353-1841

FAX (06) 6357-7780

E-mail info@muneishi.com

工学の中でも最先端の部門である反応工学の研究に取り組みました。充填塔や三相流動層の解析、バイオマスからのエタノール生産など論文誌や国際会議での発表を含め多数の研究業績を残されました。数々の研究成果から、画期的な発酵プロセス技術を考案され、アルコール製造技術に応用されました。先生の開発されたF型バイオリクターは国内外から高い評価が寄せられています。

ここに、福島先生のご遺徳を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

新任 岡田芳樹 教授「ナノ粒子工学研究室」設立

岡田芳樹教授が平成17年4月より着任され、「ナノ粒子工学研究室」が設立されます。岡田先生はナノ（10⁹）メートルサイズの粒子（ナノ粒子）の計測と制御技術と言ったナノテクノロジー部門の最先端で活躍されています。新しい戦力をむかえ本学科の「教育」・「研究」の大いなる発展を期待します。

尚、この新設に伴い「化学装置設計研究室」は閉鎖になります。

村山憲弘先生専任講師に昇進

平成17年4月より村山憲弘先生が専任講師に昇進されます。村山先生は芝田隼次教授と共に「資源循環工学研究室」にて、学生教育や研究活動に邁進されています。今後、益々のご活躍を期待します。

技術員：中原さんから佐々木さんにバトンタッチ

平成16年4月より2年生、3年生の実験科目の準備および指導で御世話いただいた中原翼さんがご退職になり、新たに佐々木智子さんが就任されました。中原さんの新天地でのご活躍をお祈りするとともに、佐々木さんの今年1年の熱心な活動に感謝し、学生教育のため今後益々ご活躍していただくことを期待しています。

■ 編集後記 ■

第11回同窓会報をお届けします。巻頭言を学科長の三宅孝典教授にお願いしました。「卒業生に聞く」では、現在社会で活躍されている3名の卒業生の皆様の近況を知らせて頂き、私たちスタッフも励まされました。「学生の窓」では、4年生の東峰有美さんよりスタディーツアーや「つながり」の大切さなど、現学部学生のしっかりとした活動に頼もしさを感じました。村山典弘先生には、国際会議の様子をお知らせいただき、興味深く拝読しました。

ご多忙中ご執筆いただいた方々や広告掲載会社の皆様に厚く御礼申し上げますと共に、卒業生の皆様の益々のご発展とご健康をお祈り申し上げます。



耐圧硝子工業株式会社

大阪営業所/〒533-0033 大阪市東淀川区東中島1-18-5
新大阪丸ビル

Tel.06 (6323) 8900(代) Fax.06 (6325) 0854

URL <http://www.taiatsu.co.jp>

平成15年度会計報告

(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

化学工学科同窓会

(収入の部)

費目	予算	実行	差額
前期繰越金	2,801,526	2,801,526	0
入会金	80,000	80,000	0
会費	600,000	537,000	63,000
銀行利子	1,000	909	91
広告費	50,000	90,000	△ 40,000
合計	3,532,526	3,509,435	23,091

(支出の部)

費目	予算	実行	差額
総会費	10,000	0	10,000
会報費	550,000	496,389	53,611
事務費	10,000	10,570	△ 570
通信費	10,000	4,530	5,470
卒業記念品	70,000	30,150	39,850
人件費	285,600	300,900	△ 15,300
雑費	5,000	540	4,460
小計	940,600	843,079	97,521
次年度繰越金	2,591,926	2,666,356	△ 74,430
合計	3,532,526	3,509,435	23,091

平成15年度化学工学科同窓会会計監査報告

平成15年度の化学工学科同窓会の会計報告書に従って、金銭出納帳について慎重に会計監査を行った結果、平成15年度化学工学科同窓会会計の運用状況は厳正かつ正確であり、その記述内容に相違がないことを認めます。

平成15年度化学工学科 同窓会会計監査委員 飯田 義彦

伊与木 茂樹

平成16年度 予算案

(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

化学工学科同窓会

収入	金額	支出	金額
前期繰越金	2,666,356	総会費	10,000
入会金	67,000	会報費	550,000
会費	600,000	事務費	10,000
銀行利子	1,000	通信費	10,000
広告費	50,000	卒業記念品	70,000
		人件費	285,600
		雑費	5,000
		次年度繰越金	2,443,756
合計	3,384,356	合計	3,384,356

*入会：学部卒生 67名
 入会率：67/104名 64.42%